



Riishiri

博物館だより

リイシリ

令和4年 343号

2/21~

第50回 移動展示

第50回移動展示「博物館ニュース2021」を開催します。鴛泊フェリーターミナル（2階）、利尻ふれあい温泉、交流促進施設「どんと」、仙法志郵便局の島内4カ所を巡回します。展示を設置している場所とその日程は下記のカレンダーの通りです。ご退場は各施設の開館・営業時間に準じるものとします。

この移動展示では、2021年度、利尻島内での新発見や当館の活動などについて、パネル2枚でご紹介します。また、これらの話題に関連する実物資料も展示する予定です。気軽にご覧いただける小さな展示ですので、お近くにお越しの際には、ぜひお立ち寄りください。

発行：利尻町立博物館

住所 〒097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町136
電話 0163-85-1411
FAX 0163-85-1282
e-mail riishir@museum.or.jp

第50回移動展示 開催日程

日	月	火	水	木	金	土
2/20	21	22	23	24	25	26
27	28	3/1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26

■ 鴛泊フェリーターミナル
2月21日～ 27日

■ 利尻ふれあい温泉
2月28日～3月6日

■ 交流促進施設「どんと」
3月7日～ 13日

■ 仙法志郵便局
3月14日～ 22日

博物館実習

当館では博物館で資料の収集や管理、調査研究を行う「学芸員」の資格取得を目指す大学生を受け入れ、実習を行っています。実習を受けた大学生の伊藤さんから感想を寄稿していただきました。

北海道大学農学部4年の伊藤玲です。2021年10月4～9日の5日間、利尻町立博物館にて、博物館実習でお世話になりました。博物館実習とは、学芸員資格の認定に必要な大学の科目で、博物館の現場で学芸員の実務を経験させてもらう実務実習が含まれます。

短い期間に興味深い実習プログラムが凝縮されていて、とても濃密な時間を過ごすことができました。例えば、雑誌資料の整理・登録、鳥類仮刺製標本の作製では、学芸員の業務を実際に体験させていただきました。また、ポン山や海で行った自然観察では、資料の調査や収集を行う際の心得を教えてくださいました。他にも、実習の一環として、「利尻島の砂防」というテーマで取材をし

て、展示資料を作成しました。展示作成にあたって、稚内建設管理部のご協力をいただき、オチウシナイ川にて令和2年10月に発生した土石流と、これを堰き止めた砂防ダムの取材をさせていただきました。この展示は、加筆・修正を加えた後、利尻町立博物館に展示される予定となっています。身近にあるものの、意外と知らない砂防ダムの役割について、この展示を機に興味を持っていただけると幸いです。

最後に、感染対策に細心の注意を払い、博物館実習を受け入れてくださった利尻町立博物館の職員の皆さまに感謝いたします。また、急遽、砂防ダムの見学を申し出たにもかかわらず、丁寧に案内をしてくださった稚内建設管理部利尻出張所の住吉貴博様と砂防ご担当者様に厚く御礼を申し上げます。



令和2年の土石流を堰き止めた砂防ダム（オチウシナイ川上流部）（伊藤さん提供）

利尻の海の不思議 18 イワシの漂着

1月最終週、稚内に引き続き、利尻島にもへい死したマイワシが大量に漂着しました。マイワシが生息できる水温は10℃以上だと考えられており（黒田、2015）。1月後半の水温が低かったことが原因の1つではないかと推測しています。

博物館では漂着したイワシの標本を作成して保管するとともに、記録に残したいと考えています。また、過去にも同様の現象が報告がないか、過去の記録を調べたいと考えています。みなさんも利尻島内のイワシの漂着に関する情報をお持ちでしたら、博物館までお知らせいただけましたら幸いです。



1/29の本泊の磯。多数のイワシが打ち上げられています。

参考文献
黒田一紀、水産海洋研究 79(4):308-315.

博物館事業報告

野外での観察会

当館では夏〜秋にコウモリ観察会や池のいきもの観察会、秋の探鳥会などの野外観察会を開催しました。いずれも森林公園や種富林道など手軽に行ける場所での開催。池のいきもの観察会では小さなため池に10種もの動物が生息していたほか、探鳥会でも10種もの鳥を観察することができました。季節や天候、観察方法などによっても見られる生物は変わります。みなさんもぜひ利尻島内の身近な自然を楽しんでみてください。また、来年度も観察会の開催を計画しておりますので、ぜひご参加ください。



探鳥会の様子。森林公園内を散策しながら、野鳥の探索を行いました。双眼鏡で観察すると、体の形や羽の色もよく見えます。

フィールド発表会

フィールド発表会は利尻島内で独自に調査や研究に取り組んでいる方々が成果を発表する場として、当館をはじめとする4団体で共催しています。9月の開催を予定していたものの緊急事態宣言の発令により延期となり、11月23日に開催しました。当日は5名の発表者の方から幅広い分野のお話を伺うことができました。会場からも多数のご質問をいただき、活発な発表会となりました。

発表者、タイトル

- ① 富岡森林、利尻島産オヨギユスリカ類の一種について。
- ② 西島一樹、カシパンワールド。
- ③ 長谷部文香、利尻島の国有林について。
- ④ 山谷文人、石崎にのこされた海底電線陸揚施設。
- ⑤ 安田志穂、海藻押し葉について。



フィールド発表会当日の様子。間隔をあけた座席配置にして感染症対策も行いました。

傷病鳥保護

- 2021年10月〜2022年1月は個体の野鳥の保護と回収を行いました。
- ・ シロハラ、10月20日、秀峰園、山谷文人さん、死因不明
 - ・ ダイサギ、11月17日、鴛泊、富山愛梨さん、給餌と保温を行ったが落鳥

リイシリ購読・閲覧

利尻町内の方には無料でお届けいたします。町外の方は1部につき郵送料84円のご負担で定期購読が可能です。メール配信も行っております。定期購読については当館までお気軽にお問い合わせください。

現在の購読件数は利尻町内40件、一般14件、交換5件、メール97件、合計173件（238部）です。なお、本誌は博物館のホームページでも閲覧可能です。最新号のほか、バックナンバーも公開中です。「博物館だより リイシリ」でインターネット検索、もしくは左のQRコードからアクセスしてください。



スマホで
アクセスできます！

